

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

| | | | | |
|----------------|----------------|--------------|-----|-----|
| ※受理番号 | 学 校 | 教 科 | 種 目 | 学 年 |
| 107-15 | 高等学校 | 数学 | 数学Ⅱ | |
| ※発行者の 番号・略称 | ※教科書の 記号・番号 | ※教 科 書 名 | | |
| 104 数研 | 数Ⅱ 104-902 | 改訂版 NEXT 数学Ⅱ | | |

1. 編修の基本方針

本教科書は、教育基本法第2条に示す教育の目標を達成するために、以下の4つを基本方針に据え、確実な数学的教養の育成を目指した。

- 1 「何を」「なぜ」学んでいるか意識することで、内容の暗記にとどまらず、本質的で汎用性のある知識・技能が身に付けられる。**
- 2 「どのように」考えるか意識することで、思考力・判断力・表現力を養うことができる。**
- 3 生徒の主体的な学習を助ける。**
- 4 進学する生徒に必要な数学的教養が身に付けられるだけでなく、社会生活で役立てられるような数学的教養も身に付けられる。**

2. 対照表

| 図書の構成・内容 | 特に意を用いた点や特色 | 該当箇所 |
|----------------|---|-----------------------|
| 前見返し | 潮の満ち引きが周期関数と捉えられることを提示し、数学と自然や生活との関連に興味をもてるようにした(第2号, 第4号)。 | 前見返し1, 2 |
| 第1章 式と証明 | 古代ギリシャの数学書について、帰納と演繹という観点で紹介し、他国の文化と数学の歴史に興味をもてるようにした(第5号)。 不等式の証明について、その意味と証明法を既習の等式の証明と比較しつつ説明し、真理を求める態度を養えるようにした(第1号)。 | 6 ページ 31 ページ |
| 第2章 複素数と方程式 | 複素数の導入として、その歴史と交流電流への応用について取り上げ、数学の発展が後に社会に寄与することがあることに興味をもてるようにした(第3号)。 | 42 ページ |
| 第3章 図形と方程式 | 方程式が座標平面上で表す直線や円などの図形、条件を満たす点が描く軌跡、不等式が表す領域などを、すべて条件を満たす点の集合と捉えるようにし、個々のパターンにとらわれずに共通した真理を追究できるようにした(第1号)。 限られた原料で利益を最大にするような生産方法を考える問題を設定し、職業と数学との関連が理解できるようにした(第2号)。 | 85~123 ページ 126 ページ |

| | | |
|--------------------------|---|--|
| <p>第4章 三角関数</p> | <p>加法定理と関連して座標平面上の点の回転について扱い、より幅広い知識や教養が身に付けられるようにした（第1号）。</p> <p>洋服の型紙にサインカーブに近い曲線が現れることに触れ、生活と数学との関連に興味をもてるようにした（第2号）。</p> <p>証明済みの加法定理について、図形を用いて再度導出することで、事象を多面的に捉えることができるようにした。また、図が表す定理を自主的に考える場面も設けた（第1号、第2号）。</p> | <p>161 ページ</p> <p>172 ページ</p> <p>173 ページ</p> |
| <p>第5章 指数関数と対数関数</p> | <p>自然現象を表すのに対数がいわれていることを提示し、数学と自然や生活との関連に興味をもてるようにした（第2号、第4号）</p> <p>音階と指数関数の関連について取り上げ、数学と生活との関連に興味をもてるようにした（第2号）。</p> | <p>174 ページ</p> <p>207 ページ</p> |
| <p>第6章 微分法と積分法</p> | <p>導関数の公式について、その証明を二項定理と関連付けて扱い、覚えるだけでなく真理を追求できるようにした（第1号）。</p> <p>微分・積分の歴史を、本文で考えた流れと対比しながら提示し、数学の歴史に興味をもてるようにするとともに、学んできたことを自ら振り返って考えられる場面を設けた（第1号、第2号、第5号）。</p> | <p>220 ページ</p> <p>263 ページ</p> |
| <p>数学の考え方</p> | <p>数学の問題を解くときにどのように考えるかについて、本文の内容と関連付けながら詳しくまとめ、生徒が自らの思考のプロセスを意識することで、思考力・判断力を養えるようにした（第1号、第2号）。</p> | <p>264～269 ページ</p> |
| <p>総合問題</p> | <p>数学Ⅱで学んだ内容を発展させる問題を設定し、生徒の関心や意欲を高めるとともに、思考力・判断力・表現力を高められるようにした（第1号、第2号）。</p> | <p>270～273 ページ</p> |
| <p>課題学習</p> | <p>数学Ⅱで学んだ内容を、生活と関連付けたり発展させたりするなどして、生徒の関心や意欲を高める課題を設け、生徒の主体的な学習を促し、数学のよさを認識できるようにした（第1号、第2号）。</p> | <p>274～281 ページ</p> |
| <p>答と略解</p> | <p>意欲のある生徒が自学自習もできるよう、問題、章末問題、総合問題の答と略解を掲載した（第2号）。</p> | <p>282～290 ページ</p> |
| <p>主な用語</p> | <p>数学用語を用いて表現する際の注意点などをまとめ、自ら表現する活動の助けになるようにした（第2号）。</p> <p>数学用語の英語表現を掲載し、国際社会で数学を役立てられるきっかけになるようにした（第5号）。</p> | <p>291～293 ページ</p> |
| <p>後見返し</p> | <p>数学を具体的事象に活用する場面で、常用対数の近似値が調べられるようにした（第2号）。</p> | <p>後見返し 1, 2</p> |

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

「1. 編修の基本方針」にのっとり、以下の点に特に意を用いた。

1 「何を」「なぜ」学んでいるか意識することで、内容の暗記にとどまらず、本質的で汎用性のある知識・技能が身に付けられる。

学ぶ内容の全体像が把握できるようにした。

(8ページ, 190ページなど)

項目の初めに設けた「ここで学ぶこと」では、既習事項との関連や違いを確認しつつ、その項目で学ぶことを提示し、内容の全体像が把握でき、何を何のために学んでいるのか、生徒自身が意識しながら読み進められるようにした。また、各節の全体像が視覚的に把握できるロードマップをデジタルコンテンツで用意した。

→ 3

例題の解答を振り返る場面を設けた。

(13ページ, 198ページなど)

例題の解答の後に、その内容を真に理解できているか確認するため、その解法が妥当である理由などを説明させる【?】や?を設けた。それにより、解答を単に暗記するだけでなく、理解して定着できるようにした。

より汎用性のある記述を採用した。

● 図形と方程式 (85ページ, 111, 112ページなど)

方程式が座標平面上で表す図形、条件を満たす点の軌跡、不等式の表す領域などをすべて「条件を満たす点の集合」と一貫して捉えるようにし、パターンの暗記に陥ることなく本質的な理解ができるようにした。

2 「どのように」考えるか意識することで、思考力・判断力・表現力を養うことができる。

どのように考えるか意識しながら学べるようにした。(229ページなど, 264~269ページ)

比較的難しい問題や、本文で特徴的な考え方を示す箇所に、どのように考えるか端的に表したキーワードを「考え方」として付した。キーワードに触れながら取り組むことで、どのように考えるかが自然に意識され、思考力を養うことができる。

さらに巻末には「数学の考え方」として、問題への取り組み方や本文に付したキーワード、および個別の内容についての詳しい解説を掲載し、さらに思考力を高めていけるようにした。

Link MAP 3 対数とその性質

ここで学ぶこと

$2^2=2$ を満たす実数 x は $x=1$ であり、 $2^4=4$ を満たす実数 x は $x=2$ である。では、 $2^3=3$ を満たす実数 x はどのように考えられるだろうか。中学校では、どのような正の数 M に対して $x^2=M$ となる実数 x を考えられるように、記号 $\sqrt{\quad}$ を定めて $x=\pm\sqrt{M}$ とした。同様に、どのような正の数 M に対して $2^x=M$ を満たす実数 x を考えられるように、新しい記号を定めることを考えよう。指数関数と「逆」の関係にある関数を考えていくことになる。第1節で学んだ指数関数の性質との関係を意識しながら学んでいこう。

(190ページ)

応用 例題 2 方程式 $\log_3 x + \log_3(x-8) = 2$ を解け。

考え方 方程式を $\log_3 \circ = 2$ の形に変形して、例題 6 (1) と同じように考える。2つの真数がかとも正であることに注意。

解答 真数は正であるから $x > 0$ かつ $x - 8 > 0$
すなわち $x > 8$ ……①
方程式を変形すると $\log_3 x(x-8) = 2$
よって $x(x-8) = 3^2$
式を整理して $x^2 - 8x - 9 = 0$ すなわち $(x+1)(x-9) = 0$
①より $x = 9$ ← $x = -1$ は①を満たさない。

【?】 方程式 $\log_3 x(x-8) = 2$ の解は、上の方程式の解と同じだろうか。

(198ページ)

一般に、 x, y の方程式は、座標平面上で表す図形を表す。さて、そもそも方程式が座標平面上で図形を表すとはどういうことだろうか。たとえば、 x, y の1次方程式 $2x + y - 4 = 0$ を満たす x, y の組は無数に存在する。それら x, y の組すべてについて、点 (x, y) を座標平面上にとると、その点の集まりは右の図のような直線になる。このように、 x, y の方程式について、それを満たす点 (x, y) 全体の集合を座標平面上に表すと、ある図形になる。

(85ページ)

応用 例題 2 関数 $f(x) = x^3 + ax + b$ が $x = 2$ で極小値 -6 をとるように、定数 a, b の値を定めよ。また、極大値を求めよ。

考え方 上のことから、極小値の条件を $f'(x), f(x)$ の条件に言いかえる。言いかえた条件は必要十分条件ではないことに注意。

考え方 言いかえる p.269

(229ページ)

考え方 言いかえる

条件や結論が考えにくい場合は、別の言葉で言いかえると、問題を解く方針が立てやすくなる場合があります。

◆ 229ページ **応用 例題 2**
「 $f(x)$ が $x = 2$ で極小値 -6 をとる」という条件は、次の [1], [2] がともに成り立つことであると言いかえることができます。
[1] $f(x)$ は $x = 2$ で極小となる [2] $f(2) = -6$

(269ページ)

思考力・判断力・表現力を養うための問題を掲載した。

● **深める** (250 ページなど)

見方を変えて考えたり、内容の正確な理解が必要となったりする問題を本文内に適宜設けた。

● **問題** (26 ページなど)

節末に設置した問題の最後に、思考力が必要な問題を掲載した。

● **総合問題** (270～273 ページ)

本文の内容を総合的に活用して取り組む長文の問題を巻末に掲載した。

● **Expression, 主な用語** (77 ページなど, 291～293 ページ)

数学用語を正しく用いて表現する練習を Expression として設けた。また、数学用語を用いて表現する際の注意点を、巻末の主な用語の中に適宜掲載した。

244 ページの定積分の性質

$$3 \int_a^b f(x) dx = \int_a^c f(x) dx + \int_c^b f(x) dx$$
 が成り立つことを、図形の面積を用いて説明せよ。ただし、 $a < c < b$ とし、 $a \leq x \leq b$ において常に $f(x) \geq 0$ であるとする。

(250ページ)

3 生徒の主體的な学習を助ける。

生徒が主体的に取り組むための工夫を施した。

● **目標の設定** (8 ページ, 14 ページなど)

各小項目に目標を設定し、何ができるようになればよいか生徒が意識して学べるようにした。また、目標となる具体的な練習も設定し、その練習が解けたか振り返ることで、目標を達成できたかを生徒自身で把握できるようにした。章扉には目標の一覧も設けた。

● **ICT の活用 Link マーク**

教科書の内容について、生徒自らが考察するためのツール、理解を助ける動画やアニメーション、参考資料、計算カードなどのデジタルコンテンツを用意した。

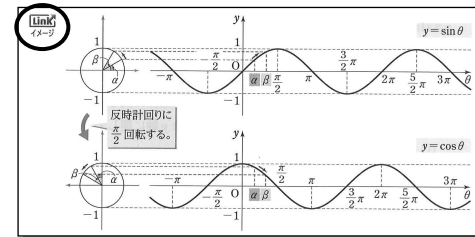
紙面では表現が難しい動きをとともなうコンテンツもあり、生徒が触れることで理解を深められるようにした。コンテンツは、インターネットに接続することで活用できる。

C 二項定理の活用
 目標 $(a+b+c)^2$ の展開式の係数が求められるようになる。(p.14 練習 11)

(14ページ)

目標 $(a+b+c)^2$ の展開式における次の項の係数を求めよ。
 (1) a^2bc^2 (2) a^2b^2c (3) a^2b^4

(14ページ)



(143ページ)

生徒自身で読み進められる工夫を施した。

● **ここで学ぶこと** → **1**

● **内容のつながりを意識した記述** (98 ページなど)

本文でも、既習事項との関連や違いを意識した記述とし、単発の問題の羅列ではなく、内容の全体像の中での位置づけを理解しながら読み進められるようにした。

● **数学独特の表現の補足** (56 ページ, 194 ページなど)

「複素数の範囲で因数分解する」「両辺の対数をとる」「任意の」などの数学独特の表現について脚注で補足した。

● **既習事項の復習** (121 ページ, 135 ページなど)

集合、三角比、指数法則などの既習事項も記述し、容易に読み進められるようにした。

88 ページで学んだように、直線については、異なる 2 点が与えられれば、それらを通る直線が 1 つに定まる。
 一方、円については、異なる 2 点が与えられても、それらを通る円は 1 つには定まらない。1 つの直線上にない 3 点が与えられたとき、それらを通る円が 1 つに定まる。
 3 点を通る円の方程式を求めてみよう。

(98ページ)

4 進学する生徒に必要な数学的教養が身に付けられるだけでなく，社会生活で役立てられるような数学的教養も身に付けられる。

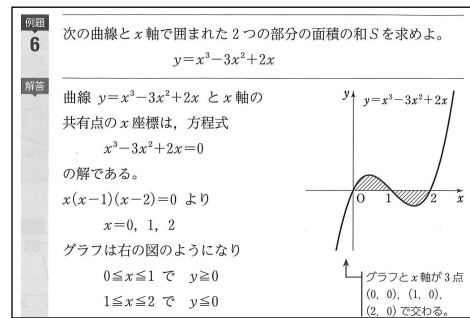
その後の学習や進学後の学習に必要な内容は，本文でしっかりと扱うようにした。

● 方程式の応用 (151, 188 ページ)

三角関数，指数関数について，式の一部をおき換えて解く方程式の問題を本文で丁寧に扱った。

● 4 次関数のグラフ，3 次関数のグラフと面積 (228, 252 ページ)

4 次関数のグラフや，3 次関数のグラフと面積についても本文で扱った。



(252ページ)

本文外の「研究」や「発展」を学ぶことで，更に充実できるようにした。

● $(a + b + c)^n$ の展開式 (15 ページ)

二項定理に関連して， $(a + b + c)^n$ の展開式における係数の一般形について扱った。導出は本文で考えた 2 通りの方法を示すことで，式を多面的に捉えられるようにするだけでなく，本文の既習事項を再確認して包括的に捉えられるようにした。

● 3 次方程式の解と係数の関係 (71 ページ)

学習指導要領の範囲外の内容であるが，直前の応用例題 4 の別解も含めて扱った。

● 2 つの円の交点を通る図形 (109 ページ)

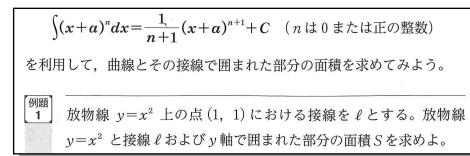
やや発展的な内容であるが，94 ページでは類似の「2 直線の交点を通る直線」も扱っているので，それと関連付けながら指導することができる。

● 関数 x^n の導関数 (220 ページ)

第 1 章で学んだ二項定理を利用して証明している。確かな論証力の育成を目指した。

● $(x + a)^n$ の微分と積分 (258, 259 ページ)

$(x + a)^n$ の微分と積分について取り上げ，さらにその適用例として放物線と接線で囲まれた部分の面積を求める問題を例題として扱った。

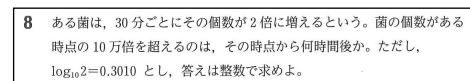


(259ページ)

生活に数学を役立てる場面や，その準備となる場面を設定した。

● 指数関数・対数関数の応用 (205 ページ)

実社会に指数関数が現れる典型的な例として菌の増殖に関する問題を扱い，ウイルス感染など，指数関数的に増加する事柄について考える場面を設けた。



(205ページ)

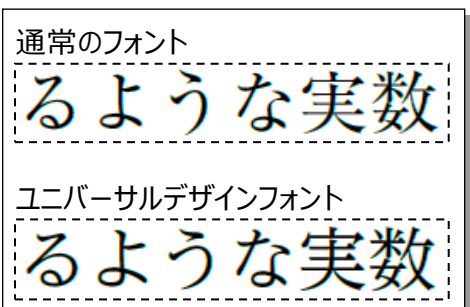
5 ユニバーサルデザインに関する取り組み

● 色づかい

色覚の個人差を問わず多くの人に見やすいよう，カラーユニバーサルデザインに配慮した。

● 文字

本文等に，多くの人に見やすく読みまちがえにくいデザインの文字(ユニバーサルデザインフォント)を使用した。横画が通常のフォントより太く，視認性・可読性に優れている。



編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

| ※受理番号 | 学 校 | 教 科 | 種 目 | 学 年 |
|----------------|----------------|--------------|-----|-----|
| 107-15 | 高等学校 | 数学 | 数学Ⅱ | |
| ※発行者の 番号・略称 | ※教科書の 記号・番号 | ※教 科 書 名 | | |
| 104 数研 | 数Ⅱ104-902 | 改訂版 NEXT 数学Ⅱ | | |

1. 編修上特に意を用いた点や特色

1 全般的な留意点

- 1 数学的教養や学習態度が多くの生徒の身に付くよう、できる限り平易な例示による明解な説明とし、段階を追った論理の飛躍がない展開とする。
- 2 生徒の学習が、内容の暗記や例題の真似に偏ることのないようにし、確かな知識・技能を身に付け、思考力・判断力・表現力につなげられるようにする。
- 3 学習内容の全体像や前後の内容とのつながりを随時示すことで、生徒が単発の問題の羅列と感じないようにする。

2 教科書の特徴

- 1 基本的な概念や原理・法則について体系的な理解を深めることができるよう、既習事項との接続ならびに各学習事項の体系にギャップが生じないよう十分な配慮をした。特に、内容どうしのつながりが読んで理解できるよう心掛けた。
- 2 用語・記号の定義や本文の説明は、単純平明で理解しやすいものにする一方で、できる限り汎用性のある記述になるよう心掛けた。
- 3 例や例題はできる限り基本的な内容に絞り、理解が容易になるようにした。また、既習内容の組み合わせで解ける問題は例示せず練習問題としたり、例題の解答を振り返って理解を確認する問いを設けたりして、生徒の学習が内容の暗記に偏らず、本質的な知識・技能を理解して身に付けられるよう配慮した。
- 4 生徒が思考力を伸ばしていけるよう、どのように考えて問題などを解決していくか、その考え方が常に意識できるように心掛けた。
- 5 図版を多用したり、レイアウトを工夫したりして、視覚的な面で理解の助けになるようにした。また、生徒が親しみをもって学習できるよう、色刷りの図版や写真を豊富に使うなどして、生徒の感性に近づける工夫をした。
- 6 数学的論拠に基づいて判断する態度が育つよう数学的な厳密さにも配慮した。また、本文の説明や展開における表現・表記の不統一を排除し、例題や応用例題の解答も論理的飛躍が生じないよう配慮した。
- 7 課題学習をはじめ、興味をもって主体的に学べるような題材を選ぶことで、生徒が数学の良さを認識し、それらを積極的に活用する態度が養えるようにした。
- 8 余力のある生徒のため、高等学校学習指導要領における数学Ⅱの範囲を超えた内容のうち適切と思われるものを、発展で扱うようにした。
- 9 色覚の個人差を問わず多くの人が見やすいよう、カラーユニバーサルデザインに配慮した。また、本文の和文書体として、多くの人が見やすく読みまちがえにくいデザインの文字（ユニバーサルデザインフォント）を用いた。

3 教科書の構成要素

各章の構成

[ここで学ぶこと] その項目で何を学ぶかを、既習事項と関連付けてまとめた。

[目 標] 小項目で身に付けるべき内容を具体的な「練習」の番号とともに示した。

[例 題] 本文の内容を理解するための導入例や計算例である。

[例 題] 学習した内容を利用して解く、重要で代表的な問題である。「解答」や「証明」では模範解答の一例を示した。最後に **【?】** や **①** として解答の内容に関する問いを載せてあり、それに答えることで、解答をただ読んだり真似したりするだけでなく、自然に例題を深く理解できるようになる。特に、**①** は、考えることで後の練習を解くのに役立つ問いである。

[応用例題] やや発展的な問題である。「解答」の前に、問題を解くためのポイントを「考え方」として載せた。例題と同じく **【?】** や **①** を載せている。

[練 習] 例、例題、応用例題などの内容を身に付けるための練習問題である。

[考 え 方] 問題に取り組む際にどのように考えたらよいか、そのキーワードである。個々の問題についてではなく汎用性の高いものであるため、今後様々な問題に挑んでいけるような思考力が自然と養われる。

[深 め る] 練習の中でも、少し見方を変えて考える必要がある問題や、内容の正確な理解が必要な問題である。内容の深い理解に役立つ。

[Expression] 正しい数学用語で内容を表現する練習である。

[ま と め] ある程度のまとまりで、そこで学習した内容をまとめた。

[問 題] 各節の終わりにあり、その節で学んだ内容を身に付けるための問題である。関連する内容について、本文の参照ページを示した。最後には思考力を要する問題も掲載している。

[章末問題] A, B に分かれていて、A はその章の内容の復習問題、B は総合的な復習と応用問題である。

[研 究] 本文の内容に関連するやや程度の高い内容である。省略して進むこともできる。問題や章末問題で研究に関する内容を扱う場合は **【研究】** を付した。

[発 展] 数学の学力が高い生徒の興味・関心を惹くため、高等学校学習指導要領における数学Ⅱの範囲を超えた内容を取り上げた。

[Column] 数学の面白い話題や身近な話題、学習内容を深める話題を取り上げた。

巻 末

[数学の考え方] 問題をどのように考えていけばよいかについて、本文の「考え方」とも関連させて詳しくまとめた。

[総合問題] 思考力・判断力・表現力を要する総合的な問題である。

[課題学習] 本文の内容に関連する興味深い事柄について、学習者が主体的に取り組めるいくつかの課題とともに取り上げた。

[主な用語] 本書に登場する主な数学用語と、その英語表現を載せた。また、数学用語を用いて表現する際の注意点も適宜載せた。

インターネットへのリンクマーク

教科書の内容について、考察するためのツール、理解を助ける動画やアニメーション、参考資料などが利用できる目印である。インターネットに接続することで活用できる。



4 各章において配慮した点

第1章 式と証明 式と計算／等式・不等式の証明

不等式の証明について、パターンごとに小項目を分けて学びやすくしつつも、「差を取って証明する」という一貫した方針を随時意識させることで、本質を見失わないよう配慮した。一方、相加平均と相乗平均の大小関係は手法が異なるため、これを最後に扱い、やはり本質を見失わないようにし、また、生徒の負担を軽減するようにした。

第2章 複素数と方程式 複素数と2次方程式の解／高次方程式

「高次方程式」では、まず剰余の定理を取り扱い、すぐに因数定理の学習につなげることによって、学習の効率のよい展開とした。また、高次方程式は、因数分解を利用することで次数の低い方程式に帰着して解くことを強調し、例題で扱ういくつかの解法を包括的に捉えられるようにした。

第3章 図形と方程式 点と直線／円／軌跡と領域

全体を通して、方程式が座標平面上で表す図形、条件を満たす点の軌跡、不等式の表す領域などをすべて「条件を満たす点の集合」と一貫して捉えるようにし、パターンの暗記に陥ることなく本質的な理解ができるようにした。軌跡を求める手順も集合を用いて捉えなおすことで、逆を確認する意味を理解できるようにし、例題の解法を真似て暗記するだけにとどまらないようにした。

第4章 三角関数 三角関数／加法定理

三角関数は、単位円による定義を重視し、周期性を含む三角関数の種々の性質についても、まずは単位円を用いてしっかり理解し、その後に扱う三角関数のグラフを用いて再度捉えなおすという構成とした。三角関数を含む方程式や不等式なども、単位円で捉えることを重視し、グラフを用いた説明については補足的な扱いとした。

第5章 指数関数と対数関数 指数関数／対数関数

累乗根の説明は指数の拡張の途中に入れているが、何のために累乗根を考えるのかという全体の流れを見失わないよう、指数を有理数全体に拡張するための準備であることを本文に記述した。対数については、 $\log_a M$ が、 a を何乗したら M になるか表した数であることを早めに示し、定義式を暗記するだけでなく、対数の意味を感覚的に理解できるよう配慮した。

第6章 微分法と積分法 微分係数と導関数／関数の値の変化／積分法

微分法も積分法も、一般的な n 次の多項式について計算できるように公式化し、高次の関数を極度に特別視しないようにする一方で、計算が煩雑になる4次関数のグラフや3次関数に関する面積については深入りしすぎないようにしつつ、必要な内容を適切に配置した。また、定積分については、面積を導入するまでは差を計算する意義を理解しにくいいため、差の計算が面積の計算につながることを予告してから内容に入るようにし、目的を見失わないよう配慮した。

課題学習

さまざまな運用を考慮して、巻末にまとめて取り上げ、1つのテーマに対して複数の課題を設定した。各テーマの最後にはある程度自由度のある「まとめの課題」をおき、総合的なレポート課題としても使えるようにした。いろいろな平均とその大小関係や周期関数の性質など、既習内容を発展させ、数学の内容そのものを深める課題を中心に取り上げた。

2. 対照表

| 図書の構成・内容 | 学習指導要領の内容 | 該当箇所 | 配当時数 |
|---|--|------------|------|
| 第1章 式と証明 第1節 式と計算 第2節 等式・不等式の証明 | (1) いろいろな式 ア(ア)(イ), イ(ア) イ(イ) | 6～41ページ | 17 |
| 第2章 複素数と方程式 第1節 複素数と 2次方程式の解 第2節 高次方程式 | (1) いろいろな式 ア(ウ)(エ) ア(オ), イ(ウ) | 42～73ページ | 13 |
| 第3章 図形と方程式 第1節 点と直線 第2節 円 第3節 軌跡と領域 | (2) 図形と方程式 ア(ア)(イ), イ(ア) ア(イ), イ(ア) ア(ウ)(エ), イ(イ) | 74～127ページ | 25 |
| 第4章 三角関数 第1節 三角関数 第2節 加法定理 | (4) 三角関数 ア(ア)(イ)(ウ), イ(ア)(イ)(ウ) ア(エ), イ(ア)(イ)(ウ) | 128～173ページ | 21 |
| 第5章 指数関数と対数関数 第1節 指数関数 第2節 対数関数 | (3) 指数関数・対数関数 ア(ア)(イ), イ(ア)(イ)(ウ) ア(ウ)(エ), イ(ア)(イ)(ウ) | 174～207ページ | 14 |
| 第6章 微分法と積分法 第1節 微分係数と導関数 第2節 関数の値の変化 第3節 積分法 | (5) 微分・積分の考え ア(ア), イ(ア), 内容の取扱い(1) ア(イ), イ(イ) ア(ウ), イ(ウ), 内容の取扱い(1) | 208～263ページ | 26 |
| 課題学習 | [課題学習], 内容の取扱い(2) | 274～281ページ | 4 |
| | | 計 | 120 |

※該当箇所について

該当箇所には「発展」は含まないものとする。

※配当時数について

配当時数は、教科書紙面の内容を取り上げる時数を想定したものである。実際の授業では、具体的な事象の考察を通して数学への興味や関心を高め、数学をいろいろな場面で積極的に活用できるようにすることが求められており、そのような数学的活動のための時数も考慮する必要がある。

編 修 趣 意 書

(発展的な学習内容の記述)

| | | | | |
|----------------|----------------|--------------|-----|-----|
| ※受理番号 | 学 校 | 教 科 | 種 目 | 学 年 |
| 107-15 | 高等学校 | 数学 | 数学Ⅱ | |
| ※発行者の 番号・略称 | ※教科書の 記号・番号 | ※教 科 書 名 | | |
| 104 数研 | 数Ⅱ104-902 | 改訂版 NEXT 数学Ⅱ | | |

| ページ | 記 述 | 類型 | 関連する学習指導要領の内容 や内容の取扱いに示す事項 | ページ数 |
|-----|-------------------|----|-------------------------------|------|
| 61 | 対称式 | 2 | (1) いろいろな式 ア(エ) | 1 |
| 71 | 3次方程式の 解と係数の関係 | 2 | (1) いろいろな式 ア(オ) | 1 |
| 168 | 和と積の公式 | 2 | (4) 三角関数 ア(エ), イ(ア) | 1 |
| 合 計 | | | | 3 |